**調査結果**

①　健康・疾病

【結果】

・健康であると感じている割合は、全体で69.0％、元気高齢者で73.0％、要支援・要介護高齢者で24.4％、健康でないと感じている割合は全体で27.0％、元気高齢者で23.6％、要支援・要介護高齢者で68.2％となっている。

・現在治療中、後遺症のある病気について、「高血圧」が最も高く、続いて「目の病気」、「糖尿病」、「筋骨格の病気」の割合が高くなっている。

・通院している割合は、全体で80.0％、元気高齢者で80.1％、要支援・要介護高齢者で85.4％となっている。

・介護予防について関心がある割合は、全体で69.5％、元気高齢者で74.4％、要支援・要介護高齢者で51.2％となっている。

・自分らしい生活を続けるために知りたいこと、やってみたいことは、いずれの高齢者も「転倒予防や体力、筋力向上のための運動など、からだの機能に関すること」が最も高く、続いて「健康的に過ごすための食事に関すること」、「認知症に関すること」が上位となっている。

[問 健康だと思うか]

[問 治療中・後遺症のある病気]



[問 通院の有無]



[問 介護予防への関心度]



[問 自分らしい生活を続けるために知りたいこと、やってみたいこと]

②　介護

【結果】

・現在何らかの介護を受けている割合は、8.0％となっている。

・介護が必要となった要因として「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」、「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」が上位となっている。

・主な介護者は「配偶者（夫・妻）」が最も高く、続いて「娘」、「子の配偶者」が高く、介護者の年齢は75歳以上の後期高齢者が４割強となっている。

・介護経験のある割合は、34.4％となっており、介護をしていて困ったこと、困っていることは「心身の負担が大きい」が最も高く、続いて「自分の時間が持てない」、「外出ができない」が上位となっている。

[問 普段の生活で介護・介助が必要か]



[問 介護・介助が必要になった原因/介護・介助が必要な人]



[問 主な介護者/介護が必要な人]

[問 主な介護者の年齢/介護が必要な人]



[問 介護経験]

[問 介護をしていて困ったこと、困っていること]



③　外出

【結果】

・外出を控えている割合は、全体で18.5％、元気高齢者で13.3％、要支援・要介護高齢者で69.5％となっており、控えている理由としては、「足腰などの痛み」が最も高く、続いて「病気」、「交通手段がない」が上位となっている。

・買い物で外出する頻度について、『週2・3回以上』の比較的頻度が高い割合は、全体で69.8％、元気高齢者で74.4％、要支援・要介護高齢者で17.1％となっている。

・移動手段は「自動車（自分で運転）」が最も高く、続いて「自動車（人に乗せてもらう）」、「路線バス」、「徒歩」が上位となっている。

[問 外出を控えているか]



[問 外出を控えている理由]



[問 買い物で外出する頻度]



[問 外出する際の移動手段]



④　日常生活

【結果】

・食事を誰かとする機会が毎日ある割合は56.7％となっており、食事を一緒にする人は「家族」が最も高く、続いて「近所の人や友人」となっている。

・誰かと一緒に食事をしたいと思う割合は12.8％となっている。

・食事を自分で食べられる割合は77.4％となっている。

・自分でトイレができる割合は、77.8となっており、自分で入浴ができる割合は74.6％となっている。

・預貯金の出し入れをしている割合は61.9％となっている。

[問 食事を誰かとする機会]



[問 食事を一緒にする人]



[問 誰かと一緒に食事をしたいと思うか]



[問 食事を自分で食べられるか]



[問 自分でトイレができるか]



[問 自分で入浴ができるか]

[問 預貯金の出し入れをしているか]



⑤　生きがい・社会参加

【結果】

・趣味がある人は74.8％、生きがいがある人は79.0％となっている。

・参加している地域活動、趣味の会・グループは、「趣味関係のグループ」、「スポーツ関係のグループやクラブ」が上位となっているが、「参加していない」の割合が３割を超え高くなっている。

・地域活動、趣味の会・グループの参加頻度は、「週2～3日」、「月1～3回」が２割台となっている。

・今後参加してみたい活動は、「健康スポーツ活動」が最も高く、続いて「知識・教養を高めるための学習活動や趣味の活動」、「環境美化活動」、「地域活動」が上位となっている。

[問 趣味がある人]



[問 生きがいがある人]



[問　参加している地域活動、趣味の会・グループ]



[問　地域活動、趣味の会・グループへの参加頻度]



[問　今後参加してみたい活動]



⑥　相談・支援

【結果】

・心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者（夫・妻）」が最も高く、続いて「別居の子ども」、「友人」となっている。また、「いない」人は3.4％となっている。

・寝込んだときに看病などをしてくれる人は、「配偶者（夫・妻）」が最も高く、続いて「子ども」となっている。また、「いない」人は5.2％となっている。

・家族、友人以外の相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が最も高く、続いて「役場の窓口」、「社会福祉協議会・民生委員」、「地域包括支援センター（おとしより相談センター）」が上位となっているが、「相談相手はいない」人は25.6％となっている。

[問 心配事や愚痴を聞いてくれる人]



[問 心配事や愚痴を聞いてくれる人（性別、性・年齢別）]



 [問　寝込んだときに看病などをしてくれる人]



[問　家族、友人以外で相談をする人]



[問　家族、友人以外で相談をする人（性別、性・年齢別）]

⑦　認知症

【結果】

・認知症を知っている割合は、75.5％となっており、認知症を病気だと思う割合は、54.9％となっている。

・認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思う割合は、53.3％となっている。

・認知症の原因になる病気には予防できるものがあることを知っている割合は、33.0％となっている。

・認知症について不安を持ったときの相談先は、「家族又は親族」が最も高く、続いて「医療機関」、「役場の窓口」、「地域包括支援センター（おとしより相談センター）」が上位となっている。

・認知症の予防についての考えは、「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」が最も高く、続いて「認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい」、「近くの公民館等で予防活動を行なっていれば参加したい」が上位となっている。

・「認知症サポーター」を知っている割合は、10.6％となっており、「オレンジドクター」を知っている割合は、3.9％となっている。

[問 認知症の認知度]

[問 認知症を病気だと思うか]



[問 認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思うか]



[問 認知症の原因になる病気には予防できるものがあることを知っているか]



[問 認知症について不安を持ったときの相談先]



[問 認知症の予防についての考え]



[問 「認知症サポーター」の認知度]



[問 「オレンジドクター」の認知度]



⑧　地域包括支援センター

【結果】

・地域包括支援センターを知っている割合は、27.1％となっている。

[問　地域包括支援センターを知っているか]



⑨　介護保険・地域での生活

【結果】

・介護保険のサービスの利用希望について、「利用したい」割合が79.6％となっている。利用したくない理由について、「家族に介護してほしいから」が最も高く、続いて「利用料の負担があるから」、「他人に介護してほしくないから」が上位となっている。

・介護サービス以外で今後利用したいサービスについて、「健康教室や健康相談」が高くなっている。

・今後利用したい生活支援サービスについて、「庭木などの剪定」が最も高く、続いて「配食サービス」、「宅配サービス」が上位となっている。

・特に力を入れてほしい施策について、「高齢者が在宅で生活するためのサービスや支援の充実」が最も高く、続いて「入所施設や高齢者向け住宅の整備充実」、「健康指導、健康増進、健康教室の充実」、「相談窓口の充実」が上位となっている。

・住み慣れた場所で暮らし続けることができる地域をつくるためにできることについて、「近隣の人とあいさつをしあう」が７割を超え、最も高くなっている。

・熊野町の住みやすさについて、住みやすい割合が59.1％となっている。

・熊野町に住み続けたいかについて、住み続けたい割合が71.6％となっており、住みたくない理由として、「道路、交通の便が悪いから」が最も高く、続いて「買い物などの日常生活が不便だから」、「福祉や医療が不十分だから」、「働く場がない（少ない）から」が上位となっている。

[問　介護保険サービスを利用したいか]



[問　介護保険サービスを利用したくない理由]



[問　介護保険サービス以外で今後利用したいサービス]



[問　今後利用したい生活支援サービス]



[問　特に力を入れてほしい施策]



[問　住み慣れた場所で暮らし続けることができる地域をつくるためにできること]



[問　熊野町の住みやすさ]



[問　熊野町に住み続けたいか]



[問　住みたくない理由]

